

北海道なよろし名寄市



景観形成と畦畔の強化を兼ねた芝桜の植栽

稲作北限地域の名寄市は、農家1戸当たりの平均耕地面積が約16haの大規模経営の先進地域である。本地域は、以前から大雨による洪水被害に悩まされてきたことから、平成13年の大雨をきっかけに、地域の農業者が協力して、水田の排水口に堰板を入れ降雨を貯留する「田んぼダム」の取組を開始し、その後活動組織を設立。現在では、8つの活動組織が一体となって「田んぼダム」に取り組んでいる。
(2015年農林業センサスより)



北海道なよろし名寄市



「田んぼダム」実施時の作業風景

〔洪水防止〕

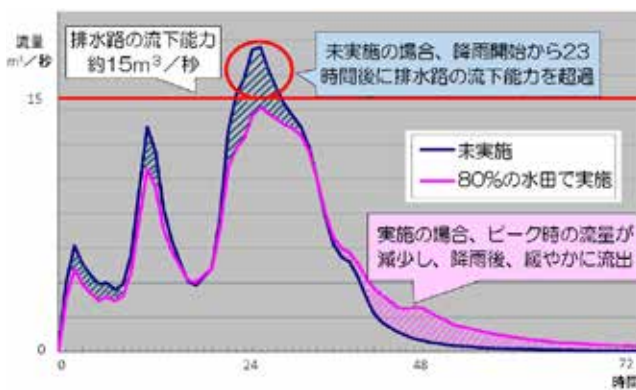
「田んぼダム」は、多量の降雨により排水路等の水位上昇や洪水の発生が予想される時に、共同作業で水田の排水口を堰板で閉め、一時的に水田に水を貯留し排水路への流入を防ぐことにより、下流農地や農業施設への被害の軽減に繋がっている。また、各活動組織の取組を発展させるため「田んぼダム啓発会議」を開催し、田んぼダムの効果や協力体制について、農業者と関係機関が情報を共有している。

〔景観の保全〕

景観形成と畦畔強化を目的として、畦畔に芝桜の植栽を行っている。

水田貯留効果のシミュレーション事例

ずいしょう
(名寄市瑞生第1排水路流域 流量調整板の場合)



過去の大雨を想定して検証したところ、流域内の対象水田の80%が「田んぼダム」を実施した場合、排水路の流下能力を超えない(洪水の可能性が低い)結果となった。

流量調整板は、直径5cmの孔のあいた堰板で、貯水時に常時一定量を流出させる。開閉作業が少なく、維持管理が容易。
(出典：「平成20年度 農地の防災機能増進 天塩川地区(天塩川水系タヨロマ川流域地域)」)

「田んぼダム」実施の流れ

名寄市では、農村の環境保全に取り組む活動組織が中心となり、「田んぼダム」の実施体制を整えている。

『大雨・洪水警報』の発令

三役会議で「田んぼダム」実施について可否判断

実施判断後

役員 各支線代表者 構成員(農家)へ連絡

各構成員(農家)による堰止め作業

天候回復後、現場の見回り点検